

## 議長ティータイム

日時：令和2年10月13日（火）午後3時～

場所：議長執務室

---

### 1 今定例会を振り返って

（議長）

本日はお集まりいただきありがとうございます。私にとっては2回目の議会でありました。今回まず各代表・一般質問においては、新型コロナウイルス関係の質問などがあり、また那覇港湾施設の浦添移設については、途中知事が調整を一旦中断したということもありました。また、会期中に安倍総理が辞めて、菅さんが就任ということもあって、政局も大きく動きが替わる中で、新聞でしか見てないんですけど、知事も総理と会えたのはよかったのではないかと思います。議会には、新しい沖縄担当の河野大臣が見えたので、河野大臣につきましては、県議会で全会一致で通った決議・意見書などの要請をさせていただきました。河野大臣が来られる前に、沖縄の振興予算については、要するに精査をしないといけないと言うので、精査してもらってる中で、個人的には、具体的に沖縄のために何ができるかということも含めて、沖縄の課題というのはやはり子供の貧困が大きいのかなと思っています。国も困難だと思いますが、子供の貧困対策は対応してもらいたいということは、河野大臣に対しても、衛藤前沖縄担当大臣にも、話をさせていただいたところでございます。

そういった状況も含めて、コロナ対策においては小委員会を設置したんですけども、先日の代表者会議では、継続するかどうかということの意見の一致や意見書も残念ながらまとまらなかったのも、皆さんの総意で一旦閉じさせていただき、各常任・特別委員会で議論していこうということになりました。また、条例の話もありますが、これについてもなかなかできなかったのは残念だなと思っておりますけれども、ただそうは言っても、10万人当たりのコロナの感染者数が6週間連続1位なんですよね。県の担当者にこの累計の日数を全部出してほしいと僕は言っています。要するに、この陸続きじゃない、離島県であるこの沖縄県が、今や何日間かは福岡よりも感染者が10万人当たりで多いというのはこれは大きな課題だと思っております。行政と議会と県民が一体となって対策を打っていないと、コロナだけじゃなくて県民の生活、あと子供から高齢者まで全部に影響するので、これもういいかげんにどう対策するかということ、これから真剣にもう一回議論していけないといけないということを考えております。

私からはとりあえず以上となります。

### 2 質疑応答

（記者）

今日与党が提案予定だった辺野古に関する意見書、最終的には取り下げとなりましたけ

ど、この一連の経緯について、いかがお考えですか。

(議長)

議長として言うことと個人的に言うことと、ちょっと難しいんですよ。

(記者)

できれば両方をお願いします。

(議長)

議長として言うと提案を出したほう、引き下げたほうも事情があったんだろうなとは思いません。これ以上は何も言えません。要するに、出したほうは出したいという思いでしたんだろうし、途中で取り下げたのも事情があったから取り下げたんだろうなと思っています。

議長としてではなく個人的に言うことでは、会派おきなわの一員として僕ら3名でどういった議論がされたかという、もちろん最初の文案も多少見させてもらったんですけど、会派おきなわは基本的に辺野古新基地移設には反対なんです。これは特に変わってないです。ところがコロナまでひっくるめられるとまずいんじゃないかということで、会派でもかなり議論になりました。3名しかいないのに議論にはなるんですよ。純粹に辺野古は反対、だけどコロナも対策打ってもらいたい。この間玉城知事は、来年度の沖縄振興予算についても、3000億プラスコロナ対策って言ってるのに、わざわざ知事を支えている与党から、コロナの対策よりもどうのこうのという文案が出されると、影響するんじゃないかなっていうのが私たちの本音ですね。本当に議論になったんです。だから今日聞くところによると、今日このまま進めていたら、公明党さんも辺野古反対なのにわざわざ辺野古反対を表明する公明党さんを敵に回す必要があるのかというのが率直な私たちの会派の議論でした。だから、本当に知事を支える気があるなら、いろいろな会派があるんですけども、むしろ増やす努力をすべきであって、踏み絵をして、コロナとくっつける必要はあったのかということ正直言って私たちの会派ではありません。これは議長として言ってるのではなく、会派おきなわの意見としてです。

(記者)

議長としてお聞きしますが、今回取り下げた理由の中の一つに、事務局の職員が議会運営委員会に出した文案が、前日に打ち合わせた与党から出したものと違っていったという言い方をされていましたが、こういったミスが、議会の意見書に影響して、もし取り下げたということになった場合、意見書の集約に関して、一定のルールをつくるなどのお考えはありますか。やはり与党の代表と議会の事務局が一方的にいろんな議員から意見をああだこうだ言われるんじゃないかと、しっかりした文案をもともと与党が出すべきだとか、どうお考えですか。

(議長)

しっかりとした文案を与党が出すべきです。

(記者)

与党は事務局にこことここを修正しておいてみたいやり方だったから、ちゃんとこの文案とこの修正案を与党が出しておけば問題なかったのかなと思うのですが、でも議会事務局に任せっきりになったところが今日のミスにもなったのかなと思います。

(議長)

基本的に、もちろん議会事務局も仕事なのでこの文案を最終的に出されたら、それにミスがないように出して、それで皆印鑑も押されていくし、議会事務局もそういう注意をしないといけないというのがあります。ただ、ヒューマンエラーというか、要するにこの文案がどんどん変わっていくと、何が何だか分からないということは、今後私たちは議会事務局の体制としては、一人に任せるんじゃないで、二重三重チェックはしていこうという話は、今朝しました。議会事務局として、特に議会前日になってくると議事日程も進めないといけないし非常に忙しい状況です。これは言い訳じゃないですけども、このヒューマンエラーをなくすためには、この体制をお互いがやったほうがいいということは事務局をはじめ、私議長としてもやるべきだと思っています。もう一方では、議会運営委員会で、この文書を見ても気づかないのも課題といえば課題です。特に提案された方々がチェックする必要がありますよね。だから今後こういう大事な意見書を出す場合は、ちゃんと確認をしていくことは、今回のことを前向きに捉えるのであれば、今後はそれを気をつけていったほうがいいだろうなと思っています。今後、今日の件については、おっしゃるように、場合によっては、最終的には議員が自分たちで印鑑を押されるわけですからチェックをしていくことは大事かなと思っています。だからといって、職員はそれに甘えるということにはならないのですが、ただよかったのは、どの会派も直接職員を責めなかったことはありがたい。そこは与野党問わず、各会派の皆さんが、議員が自分たちの責任の下で、それぞれ判断したことじゃないかなと思います。

(記者)

意見書つながりでいうと、会派の立場でもいいですが、軍港の早期移設を求めるという意見書だったんですけども、浦添市民としては早期返還をまず、そこを切り離れたほうがわかりやすかったかなと思いますが、いかがですか。

(議長)

議長ではなくて浦添市民としてですか。

(記者)

ええ。早期移設と浦添市の開発計画の早期実現を求めるという文言だったんですけども、早期返還でもよかったのかなと。

(議長)

議長として先に言うと、今日の採決は、いわゆる自民党、公明党、無所属の会、会派お

きなわが賛成、ていだが退席です。那覇港湾施設の浦添移設についての一つの立場が明確になったところと、明確じゃないところと出たんです。これはある意味、県議会の 48 名、私は議長なので私を除く 47 名の皆さんの那覇港湾施設の浦添移設についての具体的な数字が出たというか、賛否がはっきり出たんです。可決されましたのでこれが議会の今日の判断です。これをもってこれから政府に要請に行くのです。

今度は、議員、会派としての立場で話をすると、私が翁長前知事の政策委員長をさせてもらったとき、翁長前知事はもともとは自民党にいて、彼が那覇市長時代に那覇軍港の浦添移設については、儀間市長と稲嶺知事で決めたんです。その間、一旦那覇を先に返してくれとかいろいろありました。私はその当時政策委員長をしていたときに、辺野古反対と那覇軍港、高江のヘリパッドの問題はどうしますかということは翁長前知事に聞いています。その中で辺野古は反対だと。政策委員会には各政党が入っているのではっきり言って皆さんは知らなかったということはないです。ただ各党、会派においては、その頃は浦添市長は、南案であったりとか、当初は軍港移設反対で通ってきたので、二転三転している間にはっきりしないので特段皆さん慌てなかったのですけれども、浦添市長が北側に乗ったものですから大騒ぎになっているのが現状です。だから私たち会派おきなわは、私も含めてもともと翁長前知事に一番近いという自負を持ってきたので、私たちとしてはあの公約は県民と約束したことなので踏襲したほうがいいたろうということで、これについては、那覇港湾施設の浦添移設については賛成であり、明確にしたほうがいいと思っています。今の玉城知事も踏襲していますし、さらに言うと、那覇市長の城間市長は、翁長前知事の後継者です。そこは一緒なんです。城間市長と私たちは同じです。公約ですからね。それで那覇市長も明確にする、私たちも明確にしているんです。そういう立場や理由で、那覇市長と非常に同じ判断であり、那覇港湾施設の浦添移設については賛成ということになります。

(記者)

念のため確認ですけど、辺野古の意見書の決議は今日そのまま提出されていけば、会派おきなわとしてはどうお考えでしょうか。

(議長)

辺野古だけだったらいいですけど、これにコロナの件も加わったことで昨日もだいぶ悩みもめていました。会派おきなわと無所属の会で上京し、会派として衛藤前沖縄担当大臣に予算のお願いに行ったんです。那覇空港にちゃんと全員に検査を受けさせる体制をしたほうがいいこと、またこの件についての条例までしようと思いました。なのでコロナの対策というのがまさに今日の文言ですよ、これは大丈夫だろうかということで、最後までもめたんです。でも片や選挙区で、国としては、この議員がいるのでまた辺野古の問題となり、仮に、この決議に乗らないで反対の立場をとると、じゃあ辺野古は容認なんですねと取られるんです。とても厳しいことを押しつけてくるなというのが、正直私の会派ではありました。こんなにコロナ対策の部分をやりたいのに、辺野古は反対だと言ってるのに、わざわざコロナと辺野古の問題を絡めてくるのはいかがなものかというのは本音ではありました。けどどうするか、退席するとか、一人賛成とか一人反対とか、もういろいろなパタ

ーンを考えていました。まとめきれないからとりあえず今日決めようということは話して  
ました。難しい状況です。公明党は、退席じゃなくて反対とまで言うので、私はある意味、  
今日の結果は知事にとっては助かったのではないかなと思います。公明党も表明しないで  
済みまし、あれが明確に反対討論なんかしようものならそれを望むのですかというこ  
とです。

(記者)

場合によっては賛否同数になったこともあると思うんですけれども、そうなった場合  
は、今の話ですと、議長としてはどうお考えですか。

(議長)

もし賛否同数になったら、議会はどうなるんですか、やり方はすぐ議長採決じゃないん  
ですよ。

(局長)

採決の場合は多数を認定するとなっておりますね。その際には、慣例的には、同数の場  
合は、どちらが多数か認定できないものですから、その場合は投票というような形になり  
ます。投票で明確に賛否を明らかにして、さらにそのときに同数になったときに、議長が  
最終的に判断されます。

(議長)

投票というのは、退席した会派も含めていわゆる全議員による投票になりますか。

(局長)

いえ、その議場の中にいる議員で投票するというような形です。

(議長)

もし退席したら投票はしないということでしょう。

(局長)

はい。そこに存在しませんので。投票の仕方は記名投票、無記名投票ございます。

(議長)

それがまた同数だったら。

(記者)

同数になるでしょうね。

(議長)

一応こういう可能性もありました。

(記者)

では取り下げてよかったですね。

(議長)

いや、議長として、最後は自分もどこかで判断を求められたら、政治家として判断します。

(記者)

反対ですか。

(議長)

それは5分前にならないと分からないです。

(記者)

コロナの一文さえなければ、普通に賛成するわけですよ。

(議長)

そうですね。辺野古反対と言ってきているのに、コロナ対策のことよりもこのことで云々言われたら、国は本当にコロナの対策、沖縄県にいろいろしてないかといったら、ちょっとこれは言い過ぎじゃないかとはっきり言って私は思います。西村大臣も来られてましたよね。知事は西村大臣とお会いしていますよね。この採択をして、東京に行き、コロナの対策を国は何もしていないということを国に押しつけたら、私は非常に県民にとって厳しいことになるということが、議長としての意見ではなく、会派おきなわとしての一番の懸念事項です。私が先ほど申し上げたように、10万人当たりの感染者数をはっきり出さないと、もし今の状況を、政府が悪いって言うのであれば、極端な話、知事はどうなるのってことになりますよね。陸続きの福岡よりも今沖縄は厳しい状況ですから。これは政府だけが悪くて、県は悪くないのかって議論になったかもしれないですよ。

(記者)

県民からしたら辺野古の部分抜いて、コロナの部分優先したほうが意見書としてはよかったですと思うんですけど、どうですか。

(議長)

議長としてではなく、これは私もそう思います。一番最初に出ている部分は、辺野古の埋め立ての予算を、コロナに充ててということから来ているので、これがどんどん削られていくと、もうあとは何がしたいかよく分からないわけですよ。もっと言うと、辺野古、普天間の早期返還、撤去云々は前からやっている訳ですよ。コロナと引っかけてきたからもう大慌てになっているんですよ。それぞれ目的があると思うけれども、それは政治的な思惑が多少あるんだろうなと思います。

(記者)

コロナの部分を抜いて、辺野古を残したら何の意見書かなと思ってしまいますよね。

(議長)

正直言うと、コロナのことを私たちは本来やりたかったなというのがあります。

(記者)

名護市議会が防衛予算をコロナに充てるという同じような意見書を出していたから、それに引っ張られたというかそれもあつたのかなという感じもします。

(議長)

コロナに予算を充てると言うけれど、コロナの予算が特段定まっていないので、この辺が国自体がもう厳しいですからね。もちろん皆それぞれ政治家なので、各政党思惑はあるんだろうけれど簡単じゃないなと思います。

(記者)

コロナの条例、意見書の件ですけど、今議会の成立を目指してやられていたと思いますが、今議会で実現しなかった。しなかった要因はどうお考えですか。また、次の 11 月議会ではどういうことを目標にされますか。

(議長)

私が決められるものではないんですよ。基本的に一県議として話するのであれば、議長としてはこうしたほうが良いというのは、もちろん議会が決めることではありますが、できるのであればやはりコロナ、感染者数減らすのを目指したいし、死者も減らしたいということと、経済的影響が大きいなという思いがあります。昨日も県の芸能関係の皆さんがたくさん来られていましたけれども、やはり厳しい状況だなというのがあってですね、早めにこれを何らかの形で対応したい。かといって県政が全部悪いとは思っていません。議会は議会としての役割もあるし。それぞれができることは皆で力を合わせて動いたほうが良いなと思いますね。だから 11 月議会は、やはりコロナがそれまでにまた少し収まってきたらなおいいんだけど、そこでまたコロナ対策はどうするのかという議論はちゃんとやったほうが良いと思います。

(記者)

また条例とかという話にはなるのでしょうか。

(議長)

与党是那覇空港の検査は国がやったほうが良いと言っているわけですよ。私たち党派おきなわには政治経済顧問会という会があって、先日そこで台北沖縄事務所の范処長に講演してもらったんです。台湾は死者が 7 名しか出てないんです。台湾は九州ぐらいの面積で、

人口は 2400 万ぐらいいるのに感染者数は 400 何名かしか出ていない。そういう台湾の動きというのは、私たちとしては早めにこれを見習ったほうがいいとっていて、沖縄と台湾の直行便というのを早く再開させたらいいなとっています。早めにこの台湾から見習う点や台湾との経済交流、人的交流を早めにやりきれたら一番いいのかなとっていて、これを私たちはやはり目指したいんですよ。だからこの講演を先日してもらったんです。講演の中で、台湾と那覇はいつ頃から再開できますかとの質問がでましたら、やはり言われたのが、那覇がちゃんとした対策をしていないとできませんということでした。そのとおりですよ。彼らが言っていたのは、沖縄は今日仮に 20 名感染者が出ますよね。一番気にするのは感染ルートで、感染ルートが分からないのは危ないと言っていました。だから感染ルートが徹底して分かると、封じ込めができる。沖縄は最近家族で感染したりとかなんかいろいろあるじゃないですか。基地問題もあるし、難しいところではあるんですけども、早めにこれを収めて、感染ルートを徹底させていく。だから羽田空港などから来る前に検査をするのは私は反対じゃないですよ。例えば台湾が条件として、沖縄から受け入れるのであれば、せめて沖縄から出発する際にもこの検査をしてくださいということなどを上げたとき、私たちがその条件をのめるかどうかという体制をつくれるかどうかじゃないですか。私が思うに、今の県の対応というのは、沖縄に来るんだったら検査を先に受けてから来てくださいねというのは、いかにも上から目線ですよ。本当は沖縄が感染者は多いです。受け入れる相手側からしてみたら、沖縄からちゃんと検査してから来てくださいよという話になるし、実際そうだと思うんですよ。空港であるサーモグラフィーを見たら発熱者いるじゃないですか、発熱者を全員は追いかけきれないです。人を見て、サーモグラフィーを見て、さっとすり抜けて通っていくものだから、簡単じゃないと言っていました。もちろん検査キットで全部検査を行うのは限界があるかもしれないけれども、何とか対策は打たないといけないだろうとっています。なのでそこも含めて、PCR検査や抗原抗体検査、値段が少し安くなってきたり、この検査キットがいいのかどうかともいろいろと課題が出てきていますからね。あと今回の議会で出た空港内に診療所とまではいかないけれど、そういったものがありますよね。これもいろいろな提案が議長にも来ています。この業者だけがいいとは言わないので、皆さんどうぞいろいろな案を出して、一番いい体制でできるにはどうしたらいいかということプレゼンしてください。那覇空港ビルディングにも投げかけて、あとは行政や那覇空港はその確認をすればいいのではと思っています。

(記者)

空転せずによかったですね。本当に。

(議長)

私もそれは思っています。今日一応議運委員長と自民党も入れて、どうするつもりかと、空転するのが目的じゃないよねと、職員のミスだけが問題じゃないよと確認し対策をしました。最終的なチェックは議員ですからね。全部対策をしてもやはり議場に入るとお互いに立場があるのでけんかするんですよ。でもよかったのは、職員の責任だけを押しつけなかったことは、唯一の救いですね。最後はやはり議員の責任が大きいとっています。い



ずれにしてもいい意味で、今日は一応覚悟をしながら来たので、与野党とちゃんと話もできたので、面白くなかった会派もあるかもしれないけれども、それなりに連携を取れたのはよかったかなと思っています。

では、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。